9月28日のストで欧州最大級のグレーンウイスキー蒸留所が停止の恐れ

Uniteによると、Diageoのカメロンブリッジ工場では約100人の従業員が10月15日まで段階的な職場離脱を実施し、重要なスコッチ供給拠点に影響が及ぶ見通しだ。

2026年9月21日（月）



スコットランドにあるDiageoのカメロンブリッジ蒸留所で9月28日に始まるストライキは、同社のスコッチ供給網で最も重要な拠点の一つで、約3週間にわたり生産を混乱させる可能性がある。

同工場の労働者を代表する労組Uniteによると、組合員約100人が9月28日から10月15日まで、時差をつけて段階的な職場離脱に参加するという。労組は、これらの労働者が蒸留所の約200人の従業員の半数を占めており、この行動によりその期間の生産が停止するとみていると述べた。

ストライキはまだ始まっておらず、生産量への全面的な影響はなお不透明だ。Diageoは、混乱を抑

えるための代替措置をなお講じられる可能性がある。計画どおりストが実施された場合、グレーンウイスキーが何リットル影響を受けるのか、どれだけの顧客注文が影響を受けるのか、あるいはどの程度の売上減となるのかについて、現時点で推計は示されていない。

リスクが大きいのは、カメロンブリッジが欧州最大のグレーンウイスキー蒸留所であり、ジョニーウォーカーやベルズを含むDiageoの代表的なブレンデッド・スコッチブランドの重要な供給元だからだ。この拠点が長期停止すれば、既に熟成済みのウイスキー在庫があることで小売販売への直接的な影響は和らぐとしても、事業の一部で生産計画、物流、在庫計画に影響が及ぶ可能性がある。

Uniteは9月17日に、この予定されている労働争議を発表した。業界紙Harpers Wine & Spirit Trade Newsも、予定されている職場離脱を報じた。労組はこの行動を深刻なエスカレーションと位置づけ、ストの期間中に生産が止まると考えていると述べた。

予定されている行動は暦日で18日間に及ぶが、停止は全従業員による連続した全面停止ではなく、段階的なものとされている。つまり、実際の操業への影響は、蒸留所内の異なるシフトや機能でストがどう組織されるかによって左右される。とはいえ、労組員が労働力の約50%を占めることから、主要業務で長期の不在が続けば、現場の生産に圧力がかかる可能性がある。

カメロンブリッジはDiageoのスコッチウイスキー体制の中核を担っている。蒸留所のグレーンウイスキーは、英国および国際市場で大規模に生産・出荷されるブレンドに使用されている。ブレンデッド・スコッチはモルトウイスキーだけでなく、安定したグレーンスピリッツ供給にも依存しているため、カメロンブリッジでの混乱は蒸留所そのものを超えて計画に影響しうる。ストライキが通常操業を妨げれば、同社は当該拠点での生産だけでなく、輸送、倉庫保管、ブレンド日程、在庫配分も管理しなければならなくなる。

ウイスキーの生産と販売は長い時間軸で動くため、即時の商業的影響は別の種類の飲料施設の停止ほど深刻ではない可能性がある。倉庫にある熟成済み在庫は、特にすでに熟成を終え、ブレンドや瓶詰めの準備が整った製品については、緩衝材として機能しうる。これにより、店頭や近い将来の出荷への短期的影響は軽減される可能性がある。それでも、大規模なグレーンウイスキー工場で操業停止が起きれば、生産損失が速やかに回復しなければ、その先で問題を生む可能性がある。

この争議は、Diageoのスコットランド事業が依然として高収益である一方、利益が前年を下回った中で起きている。報告書で示された数値によると、Diageo Scotlandの2025年の税引後利益は5億9,500万ポンドで、2024年の7億3,600万ポンドから減少した。減少幅は1億4,100万ポンド、率にして19.2%となる。これらの数値は財務的背景を示すもので、予定されているストライキの潜在的影響を測るものではない。利益減少と現在の労使対立との直接的な関連は示されていない。

現時点では、なお不明な点が多い。Uniteも公表報道も、失われる可能性のある生産量、遅延する出荷件数、顧客への納品に影響が出るかどうかを定量化していない。また、生産が全期間中断した場合に、同社が通常操業をどれだけ早く再開できるかについても、公的な見積もりは出ていない。

カメロンブリッジは小規模な地域施設ではないため、そのタイミングはDiageoにとって重要だ。スコットランドにおける大規模な産業施設であり、英国の広範なスコッチウイスキー産業の重要な一角を占める。世界市場に展開するブランドの供給網の中でこの規模の拠点があるため、同工場で混乱が起きれば注目が集まる。短期的に最終消費者向け販売が在庫によって守られる場合でも、大規

模な蒸留所で労働争議が起きると、社内の計画はより難しくなる。

労組の声明は、同拠点がほぼ停止状態に陥る可能性を示したが、それはあくまで予測であり、確定した結果ではない。職場離脱が始まるまでは、実際の影響は従業員の参加状況、停止の構造、そしてDiageoの対応次第となる。同社は必要な操業の維持や一時的な運用調整による影響軽減を図る可能性があるが、これまでに公表された情報では、詳細な代替計画は示されていない。

現時点で重要なのは、約100人のUnite組合員が参加するストライキが9月28日にカメロンブリッジで始まり、10月15日まで段階的に続く予定だという点だ。これが実施され、労組の見通しどおりになれば、欧州でも最も重要なグレーンウイスキー蒸留所の一つが、その期間の大半で生産停止に陥る可能性があり、スコットランドおよび英国全体のDiageoのスコッチウイスキー事業に運営上の圧力が生じることになる。